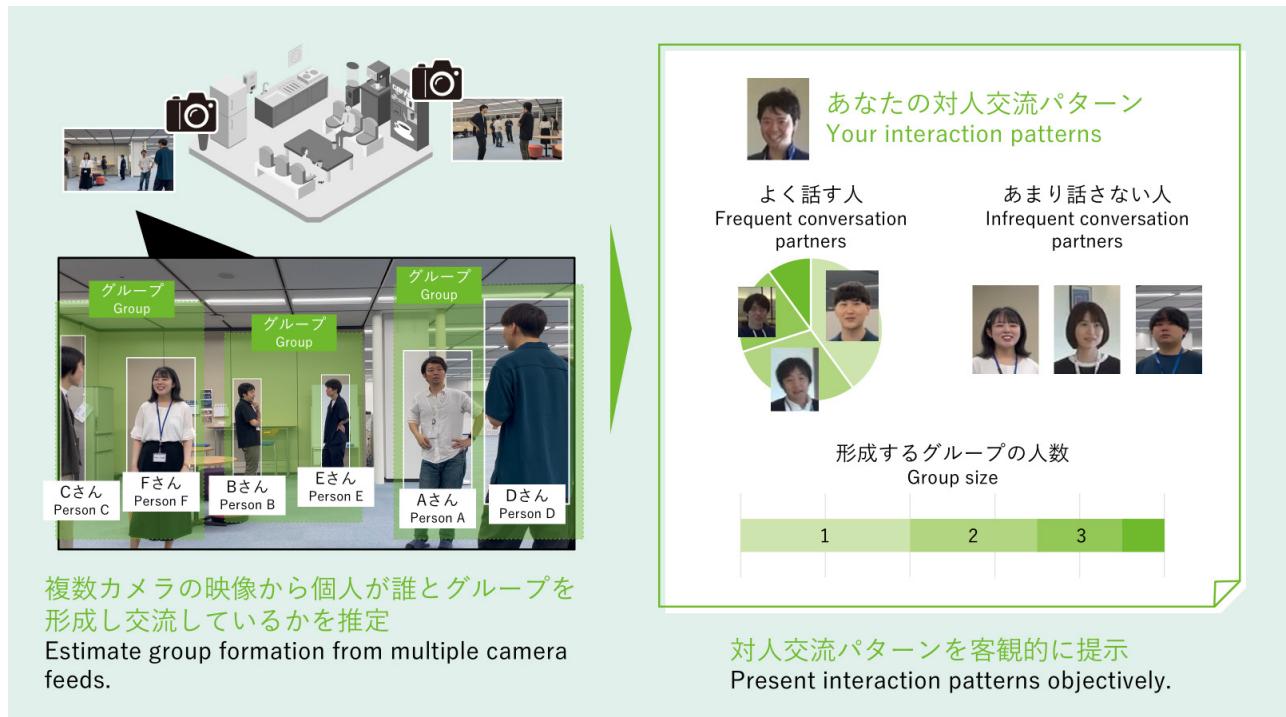


あなたが密に話す人・そうでない人をAIが客観的に分析し可視化します 複数カメラからの対人交流パターン分析技術

背景 - 技術課題

自身が誰とよく交流するかといった人間関係は、自己理解に頼って把握することが一般的ですが、客観性に欠ける課題があります。話す頻度の高低など交流パターンに関する客観的な情報を活用し、自身の人間関係をより正確に理解することで、自己認識の改善やフィードバックにつなげることができます。



研究目標 - 成果

複数カメラの映像から自身が誰とグループを形成し交流しているかを分析し、交流の相手に関する自己認識と客観的な状況の差を明らかにすることで、自己フィードバックを促します。

技術ポイント

01 要素技術

複数カメラの映像から得られる人々の位置関係や向きの情報を踏まえて、個人が誰とグループを形成し交流しているかを推定し、その結果に基づき個人が誰とよく話すかといった交流パターンを理解し可視化

02 市中技術差異点

既存技術が接触の履歴のような限られた情報に依存しているのに対し、本技術はカメラの映像から得られる情報を活用することで、自然な環境における交流パターンの理解とその可視化を実現

利用シーン マルチインダストリー

R&Dフェーズ 研究

技術確立予定期 時期 FY25-26

ビジネス化予定期 時期 FY27-29

【出展企業】
NTT株式会社 人間情報研究所

【問い合わせ先】
思考処理研究プロジェクト

【共同出展社/社外連携先】

【関連Link】 次世代メディア処理AI MediaGnosis 公式サイト
<https://www.rd.ntt/mediagnosis/>